



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 10 号

R3.6.3

文責 中西 勉



返事

毎日、各学級の子供たちの授業中の様子を、校内を歩いて見て回っています。その際に、「もう少し子供たちが頑張れるといいなあ」と思うことがあります。それは、挙手をして先生に指名されたときの「返事」です。先生に指名されても、「はい」と返事をせずに立ち、そのまま話し始める子供が多くいるのが現状です。

先生の指名と子供の返事は、言わば心のキャッチボールのようなものです。先生は、子供の発言意欲を心でしっかりと受け止めて、その子がどんな意見や考えを述べるのか、大いに期待をして指名します。それに対して、子供は自分が指名されたことを自覚し、自分の考えを整理して順序良く述べるために、「はい」と返事をして、心を整えることが大切です。このようにして、一呼吸おいて話し始めると、落ち着いて分かりやすく自分の考えを述べることができます。

1学期が始まって2か月あまりが経ちましたが、男川っ子の返事は、まだまだ発展途上にあります。授業中ではもとより、学校生活の様々な場面で、「はい」と気持ちのよい返事をするように、学校で指導を重ねていきます。

本日の一斉下校の際に、私が「今、自分にできる一番いい返事をしてみましょう」と子供たちに語りかけたところ、一人一人が自分で最高の返事をしよう意識して、「はい！」と元気で気持ちのよい返事ができました。明日からの男川っ子の返事が楽しみです。

さて、ご家庭で保護者の方がお子さんの名前を呼んだ際、お子さんはどんな返事をしているでしょうか。機会を見つけて、返事について、お子さんと一緒に振り返ってくださると幸いです。



他市からも注目される本校の「プログラミング学習」

本校は、前校長の本間先生の在職中から、現行の学習指導要領で必須となっている「プログラミング学習」に力を入れています。昨年度の学校教育活動アンケートでは、「学校は、特色ある活動（プログラミング教育など）を展開している」の項目で、91%の保護者から肯定的な評価を得ており、プログラミング学習についてご理解いただいていることをうれしく思います。

昨日、本校のプログラミング学習の様子を、刈谷市教育委員会の3名の方が視察に来られました。岡崎版GIGAスクール構想により、昨年度、一人一台支給されたタブレットを子供たちが自在に使いこなしながら学ぶ姿を見て、大変感心してみえました。今後も子供たちの論理的思考力を高めるために、ICT機器を積極的に活用しながら、プログラミング学習を進めてまいります。



算数の授業で、タブレットに表示した男川学区の衛星写真を見て、道路が垂直に交わる箇所を真剣に探す4年生

